

受験番号:33IPM001

問1

【0002】

一部の管轄区域では、被告人もしくは有罪判決を受けた者、または拘束命令を受けた者には、いわゆる足首モニタが装着されることがある。このモニタは、保釈または保護観察の下での釈放の条件として、個人の所在を監視するための電子タグ装置であり、一定の制限の下で自宅で生活することを許される。足首モニタは、主として、電子タグ付け装置本体と、装置を着用者の足首に固定するためのバンドとからなる。このバンドには2つの必須の前提条件がある。第1に、着用者は、いかなる手段によっても、バンドを取り外し、したがって装置を取り外すことができてはならない。第2に、バンドは、人権侵害の非難を避けるために、着用者の皮膚または肉にいかなる害も負傷も引き起こしてはならない。

【0003】

第1の前提条件は、決意を持った着用者が、切断、燃焼、研削などの利用可能なあらゆる手段を使用し、違反物品を取り除こうと試みるので、実際には条件を満たすことが難しい。実際に、そのようにする途中で重傷を負うことがあるので、第2の前提条件に鑑みると、単にバンドをより堅牢にすることは解決できない。

【0004】

したがって、前側（外側）のバンドの表面と後側（内側）の表面とは、完全に異なる特徴および特性を有することが自然であるように思われる。

問2

【0076】

図1から図11に示す第1の実施形態によれば、本発明の折り畳みナイフ10が、主として、長手方向Aに延びるブレード12とハンドル14とを含み、ハンドル14は、収納空間を画定するライナブロック16を含む。

【0077】

ブレード12は、ブレード12がライナブロック内の収納空間に受け入れられる非作動位置と、ブレード12がハンドル14に沿って延びる作動位置との間で枢動可能であるように、ブレード12のベース（またはヒール）12.1を通る枢動軸18によってライナブロック16上で枢動ヒンジされ、ライナブロック16上で固定される。

【0078】

ブレード12は、図6において分離した状態で視認可能であり、構成要素として、長手方向の切れ刃12.2または「エッジ」、反対側の背面12.3、点12.4、この点とは反対側にライナブロック16上の枢動軸18のための孔20を含むベース／ヒール12.1を提示している。

【0079】

ライナブロック16が、実質的に長手方向Aにあるハンドル14内に滑り込むことに留意されたい。この目的のために、ハンドル14は、2つのウイング26と2つのウイング26がそこから延びる底部24とから構成される、U字形のハンドル本体22を含む。ハンドル本体22は、ここでは、U字形の輪郭から形成されるが、代わりに、組み立てによって製造されてもよい。ハンドル本体22は、金属または任意の他の適切な材料から作製され得る。

問 3

【請求項 1】

天然石、コンクリート、セラミックなどの切削のための切削工具であって、

非常に大きな直径のディスク（10）の周辺部（12）上に複数の円周方向に間隔を空けられた切削セグメント（16）を画定する手段を有する前記ディスク（10）であって、前記切削セグメント（16）は、切削動作中にチップ材料が放出され得るように、前記チップ材料を受け入れるようになっている半径方向外向きの開口部および軸方向の開口溝（14）を画定する手段によって分離されており、前記切削セグメント（16）は、それぞれが円周方向に延びる長さ、およびその上に各切削片の全長を有する少なくとも一対の切削片を画定するための手段を有し、前記切削片は、軸方向外向きの側壁を含み、前記側壁は、均一な軸方向厚さと、円周方向（U）に波形状またはジグザグ形状のうちの少なくとも一方とを有し、相互に隣接し且つ対向する軸方向に面する切削片の表面は、互いから間隔を空けられて、半径方向外向きに開口部を画定し、それらの間で連続的に円周方向に延びるチャンネル（22、24）を画定し、各切削片上の手段は、各切削片の前記長さに沿って交互に間隔を空けられた複数の頂部分と複数の溝付き部分とを画定し、一方の切削片の側部上の前記頂部分は、前記側部に対向する他方の切削片の側部上の前記溝付き部分内に受け入れられ、それによって、前記ディスク（10）の回転面内で前記円周方向に延在するチャンネル（22、24）の普通であれば妨害されないはずの連続性を阻止する、ディスク（10）を備える、切削工具。